

2024(令和6)年度

「人権が尊重される三重」をつくるこどもサミット



2024(令和6)年12月25日(水)
三重県総合文化センター
生涯学習棟4階大研修室

- (13:20~13:30 グループで自己紹介)
- 13:30~13:40 開会行事
- 13:40~14:25 各研究校の「人権尊重の意識を広める活動」報告Ⅰ
- ① 県立四日市農芸高等学校
 - ② 川越町立川越北小学校
 - ③ 鈴鹿市立白鳥中学校
 - ④ 大台町中高生の集い
 - ⑤ 県立昴学園高等学校
- 14:25~14:35 グループで感想交流Ⅰ
- (14:35~14:45 休憩)
- 14:45~15:20 各研究校の「人権尊重の意識を広める活動」報告Ⅱ
- ⑥ 県立尾鷲高等学校
 - ⑦ 御浜町立御浜小学校
 - ⑧ 伊賀市立阿山中学校
 - ⑨ 志摩市高校生の集い
- 15:20~15:30 グループで感想交流Ⅱ
- (15:30~15:40 各校で全体意見交流に向けての打ち合わせ)
- 15:40~16:00 全体意見交流
- (テーマ「差別をなくすために自分にできること」)
- 16:00~16:10 閉会行事
- (16:10~16:20 アンケート記入)

<人権尊重の地域づくり>

「人権尊重の地域づくり」とは、子どもが生活の基盤を置く家庭や中学校区程度の範囲の地域において、学校が行う人権教育に係るさまざまな取組を肯定的に受容するような家庭や地域の基盤をつくり、子どもと保護者、地域住民等が一緒になって活動に当たることを通じ、これらの人々の間に人権尊重の意識を広めることです。

「三重県人権教育基本方針」より

けんりつよっかいちのうげいこうとうがっこう 県立四日市農芸高等学校

～差別をなくすために私たちができること～

本校の人権サークルは「知る・接する・伝える」を大切にしながら活動をしています。主な活動として、鈴鹿市人権教育センターを訪問し、障がいのある地域の方々をはじめとする利用者のみなさんと交流を深めています（通称：「であいひろば」）。

障がいの有無にかかわらず誰もが暮らしやすい社会をめざして互いに理解を深めるためには実際に交流する機会を重ねることが大切です。だからこそ、知り、体験的に学ぶ機会を会社や学校で取り入れてほしいと思っています。人権を守ることの大切さをより多くの人に理解してもらえよう、まず私たち自身が日々の交流に積極的に参加し、「知る・接する・伝える」を大切にしていきたいです。

～学びや気づきを伝える～

「伝える」活動として、8月9日の「地区別人権学習活動交流会」や10月26日の「人権まなびの発表会」といった場で、私たちのこれまでの取組からの学びや気づきを発表しました。

そこでは、「『差別をなくす人を増やしていきたい』ということばに共感した」、「差別のない社会にしたい」、「私も主体的に行動していこうと思った」といった感想をもらいました。



かわごえちやうりつかわごえきたしょうがっこう 川越町立川越北小学校

部落史学習をとおして

「ケガレ意識」や差別に対して立ち上がった人々の行動など、部落史を通して、部落問題や自分のあり方について考えました。今も残る部落問題についても学び、「差別はおかしいこと。でも無意識のうちに差別をしているかもしれない」「差別をなくすためには正しい知識をもったり、行動したりしないといけない」などの思いを持ちました。

学んだことをひろめよう（社会的活動）

保護者や地域の方々とも一緒に差別のない社会にしていきたいと考え、人権学習で学んだことを伝えました。保護者、地域の方から、感想や意見をいただき一緒に考える機会となりました。

「意見をいただいて改めて真剣に考えることができた。やっぱり、部落問題学習は必要だと思う」といった振り返りをしました。



差別のない社会をめざすなかまになるために

ヒューリアみえの松村元樹さんとの出会い学習を通して、自分が知らず知らずのうちに差別をする側になっていないか、自分たちは「100%の自分」を出せているかを考えました。

改めて自分を見つめ、自分たちはどうなのか考え、思いを出し合いました。今後、差別のない社会にするために自分はどのようにしていきたいか考えていきます。

すずか しりつしらとりちゅうがっこう 鈴鹿市立白鳥中学校

「違いを認め合う仲間づくり」

11月26日(火)白鳥中学校区人権フォーラムにおいて、日常生活の身近な場面を想定した意見交流を3つのグループに分かれて行いました。

新しいクラスになり一人でいることが多いAさん。先生が理由を尋ねると、周りの子どもたちからは「何か変わって自分とは合わないから」「Aはスマホを持ってないし」「Aと話してもおもしろくないから」などの答えが返ってきた。

この話をもとに「自分ならどう思うか」「自分ならどうするか」「似たような場面がなかったか」など、自分の生活を振り返りながら、意見交流を行いました。

12月11日(水)、白鳥中学校区人権フォーラムにおいて、2年生が2学期に行った、「自分事にしていくために」についての学びを地域と保護者に向けて発信しました。

地域の方からは、「自分たちの身近にある問題について、自分たちで考えて意見交流することは大切なことですね。今後も続けていってほしい」というお言葉をいただきました。



おおだいちょうちゅうこうせい つど 大台町中高生の集い

11月中高生の集い

集いの中で、地域に暮らす前田さんとの出会いから、前田さんの差別をなくす生き方に感動した高校生が、自分のいじめ体験について、いじめや差別をなくす生き方をしていきたいことを語りました。その語りから、差別やいじめをなくすために自分にできることについて、地域住民と話合えることができました。参加者からは、「回を重ねるごとに一人ひとりが成長していく姿が見られる場でもあると思います。子どもだけではなくおとなも気づかされることがたくさんあります」などの感想がありました。

第25回大台町人権フェスティバル

12月7日(土)に、大台町健康ふれあい会館で、地域住民に、小学校1年生から中学校3年生までの前田さんとの出会い学習の内容や中高生の集いで学習内容について紹介しました。また、自分たちがいじめや差別をなくすために活動をしていることを知ってもらい、共に人権について考えてほしいことを伝えました。地域住民からは「中高生の集いを通じて自分の居場所や自分らしさを見つけ、人権問題を真剣に考えていく中で、子どもたちが強く結びついていることがよくわかりました」などの感想がありました。



けんりつすばるがくえんこうとうがっこう 県立昴学園高等学校

(1) 人権や差別について考える「昴学園全校討論会」



今年の全校討論会は、昨年の全校討論会で出された意見を実現するために必要なことは何かを議論しました。1月には、部落差別の現実を聞き、差別をなくすために自分たちに何ができるかを議論します。

差別されるかもと不安を抱えさせられることはおかしいと思う。

差別撲滅委員会を昴学園高校に作ろう！

(2) 「大台町中高生の集い」への参加(昴学園人権サークル)



「大台町中高生の集い」で、大台町の小学生や中学生と共に人権問題について学び、語り合いました。また、大台町人権フェスティバルでは、地域の方に向け、自分たちが考えてきた取組について発表しました。

自分のことを話すのは難しい。勇気もある。

私が小学生のときのことを聞いてください。

(3) 「三重県子ども条例」の改正等に向けての意見表明



「三重県子ども条例」の改正等に向けて、当事者である子どもの意見を聴取する「こども会議」を本校で開催していただきました。会議では自分自身の権利に関する私たちの様々な意見を表明しました。

おとなのみなさんに期待することは…。

子どもの権利、守ってくれているかな？

けんりつ おわせこうとうがっこう 県立尾鷲高等学校

人権啓発チラシの取組 ～ 人権学習からの学びをとおして ～

3年生有志が、人権学習等で学んだことをもとに取り組んだ活動について、報告します。

部落問題に係る人権学習

今もなお様々な場面で部落差別が生じていることを人権学習で学びました。

2学年では「結婚」、3学年では「就職」における部落差別の現実について学び、その差別をなくす行動について考えました。

今年7月には、ヒューリアみえの原田朋記さんの講演を聞き、2、3学年の学習がさらに深まりました。

地区別人権学習活動交流会

(牟婁地区)への参加

今年8月、地区別人権学習活動交流会に参加し、3年間の人権学習等で学んだことを発表し、他校のみなさんと意見を交流しました。



啓発チラシの作成・配付

これまで学んできた人権課題や差別の現実を自分の問題として捉えて何ができるかを考え、差別解消をめざす条例や法律を改めて知ってもらうチラシを作成し、地域のみなさんに配付します。



み はまちょうりつ み はましようがっこう 御浜町立御浜小学校

御浜小の安心ルール

4月、安心な御浜小をめざして、児童会から「どのクラスでもあるルールは悪口を言わない、人を傷つけることを言わないことです。悪口のようなチクチク言葉ではなく、ふわふわ言葉でいっぱい御浜小学校にしていましょ」と呼びかけました。1～6年生の全クラスでも話し合っでクラスの「安心ルール」を作り、教室に掲示し、「自分たちのクラスはどうか」といつもふりかえています。

人との出会いから自分や学級・学年をふりかえる

渡部京李さん、浦狩知子さん、林みち子さん、中谷奈央子さんから話を聴きました。4人の方からのメッセージから「三重県は県立高校の願書に性別欄がないと聞いて、いい県だと感じた」「同じ性別の人が結婚できる日本にしていきたいです」「『生きてるだけで100点満点』と聞いて、自分に自信ができました」などの感想をもちました。



音楽参観

自分たちの思いを歌で伝えました。保護者からは「どの学年も人とのつながりを大切に曲を選んでいて、『言葉は言霊』をおともも意識する必要があったと思います」という感想がありました。



い が し り つ あ や ま ち ゅ う が っ こ う 伊賀市立阿山中学校

ヒューマンライツ阿山と人権サークルの交流会

阿山中人権サークルの生徒から学校での人権学習や人権サークルの活動について報告した後、ヒューマンライツ阿山（地域住民等）や卒業生と共に「私の関心のある人権問題」をテーマに意見交流をしました。参加生徒は「様々な問題を話し合い、有意義な時間になった」という感想をもちました。

阿山人権同和教育研究大会

人権サークルのメンバーが地域住民と共に、グループで「女性の人権」をテーマに意見交流をしました。中学生には難しいテーマでしたが、交流により「おとなと人権について話をするのは新鮮で楽しかった」という感想をもつことができました。

おとなと共に考える全校人権集会

全校生徒が12の縦割り班に分かれ、保護者や地域住民と共に「外国人に係る人権問題」「部落問題を解決するために」をテーマに意見交流をしました。生徒からは「他学年の子もみんな差別をなくそうとしているのが伝わってきて、本気で考えているのはみんな同じなのだ」と安心した、保護者からは「おとなよりも中学生のほうがとても柔軟で、たくさんのかんがえているのだ」と感動した。司会の3年生は、一人ひとりの意見をきちんと受けとめて返す姿勢があり、縦割り班で話し合う意義を感じた」という感想がありました。



しましこうこうせい つど 志摩市高校生の集い

志摩市高校生の集い

毎月1回、磯部中学校卒業生を中心に高校生が集まり、部落差別をなくすために、人権について話し合い、活動しています。

1年間の活動で学んだことを毎年1月の「人権学習発表会」で、小中学生と共に地域へ発信しています。



「部落差別をなくすために地域のおとなと語り合う」

11月の高校生の集いで、志摩市長や教育長をはじめとする市役所の方々や地域の方々を招いて部落差別について話し合いました。3グループに分かれ、まず、土地購入に関する部落差別について9月10日の集いで話し合ったことを伝え、おとなの意見を聞きました。市長からは「差別は絶対にだめなことという軸をしっかり持つこと」の大切さを教えていただきました。次に、部落差別をなくすために自分にできることを話し合いました。高校生からは「正しい知識を身につける」「集いを大事にし、発信していく」「差別をなくすために活動している人と話す」「身近な人から話をして変えていく」、おとなからは「学習し続ける」「人に伝えていく」「住民への啓発をし続ける」などの意見がありました。おとなも子どもと共に差別をなくす仲間として行動していけることを感じました。

アンケートより…「おとなが高校生の考えを聞く機会は何より説得力があることを実感した」「人権学習や集いで学んだことがしっかりと根づいていると感じました」

